

日光街道『草加宿』(2017/12/12):アルバム



ボランティアのガイドさんからコース説明を受ける(草加駅前) せんべいを焼く「おせんさん」のブロンズ像



八幡神社



社殿には高さ83cmの雌雄一對の獅子頭(市指定有形文化財)が保存



藤城家住宅店舗・内蔵・外蔵



店舗の内部



歴史民俗資料館(旧草加小学校西校舎)



中で説明を受ける



せんべい焼体験



昼食



東福寺の本堂（江戸時代後期の建物）

昭和五十七年二月二十二日指定
市指定有形文化財

東福寺本堂内外陣境彫刻欄間

草加市神明一丁目三番四十三号



東福寺本堂の内外陣境には江戸の名工 島村円哲
作の三枚からなる見事な彫刻欄間がある。

中央は一メートル四センチに一メートル七十三セ
ンチもある大きな彫刻で仏教の守護神である竜の構
図である。

技法はすぐれ、波頭を蹴る竜は迫力がある。

左右はやや小さく、中国の二十四孝の一部である。
象と耕作しているのは大舜である。大舜の親に尽く
す孝養に、象きたりて耕作をたすけ、鳥まで草をと
りて耕作の助けをしている構図である。

一方ひざまずいて天女をみあげるのは董永である。
董永は家まじしくとも、親に孝養の限りをつくし、
親の死におよび身を売って葬礼をいとなんだ。

その至誠が天に通じ、天女きたりて、董永の借財
をかえしてもあまりある織物を作りあげ、昇天する
構図である。

董永・天女ともに別れを惜しむ姿が、いきいきと
彫られている。

平成十九年三月

草加市教育委員会



東福寺本堂の外陣境欄間



東福寺境内にある印象的な墓



「草加せんべい発祥の地」の石碑



松尾芭蕉（奥の細道）：日光街道を進み「草加宿」に立ち寄った



甚左衛門堰：明治 27 年(1894)から昭和 58 年(1983)まで使用された二連アーチ型煉瓦造水門



草加松原遊歩道：かつての草加松原を整備して造られたもので、左右にそれぞれ綾瀬川と県道 49 号線を従えて南北 1.5km に延びる、およそ 634 本（スカイツリーの高さ 634m と数合わせ）の松が植えられた松並木の散歩道。途中に太鼓型の 2 つの歩道橋「百代橋（ひゃくたいばし）」と「矢立橋」がある。



草加松原遊歩道の途中にある「矢立橋」



草加松原遊歩道の途中にある「百代橋（ひゃくだいばし）」



草加松原遊歩道の途中にある石碑「日光街道」：高層建築が反射で写り込む